江工会会報

発行所
江　工　会
島根県江津市江津町1477
島根県立江津工業高校内
電話 (代) 0855-52-2120
郵便番号 〒695-0011

「江工会について」

会長　土井正人
（工業化学科　昭和三十九年卒業）

◎江津工業高校前身校

明治三十五年四月に養蚕講習所として開設、大正元年に農事講習所に改称、大正十年には女子農学校、大正十二年に島根県立江津女子実業学校に改称、昭和四年には県立江津高等実業女子校と改称され女子教育の場でありました。

◎江津工業高校の始まり

昭和九年四月より県立江津工芸学校として開校、これをもって江津工業高校の創立とし、本年で八十八年目を迎えることになります。その間卒業生は約一万三千人余りとなり、歴史と伝統のある学校でありますが、時代の流れで地方の過疎が進み、江津市の人口は二万三千人を切り、高齢化率は四十％に達しております。十五歳以下の子どもは、二千四百人程で少子化に歯止めがかかりません。そうした中での入学生の減少により、学校の存続が危ぶまれます。

◎江工会（卒業生会）について

昭和二十六年一月二日に卒業生の有志でもって発足、それ以降の会長は私で九代目となります。その目的主旨は「会員相互の親睦を図り、母校の発展を助成し、併せて実業界に貢献する」とあります。その後、各地に支部が結成されていますが、これも今は活動停止の支部も出てきております。

◎後援会について

江津・浜田・大田の教育委員会及び商工会や企業、各種団体の方々により江津工業高校後援会が発足し、江工会も副会長の役を受けて、共に地域産業発展のための人材育成に対して強力なバックアップ体制が整ってきました。

◎江工会として

後援会と共に産業人材育成の場としての、母校に対して全面的に支援をしたいと思います。最大の課題は入学生の確保にあります。毎年八十～百人の入学が望めるなら今の二学科四コース制から、三学科（機械・電気・建築）の基本学科に立ち返れたらとの思いです。江工会としても何か具体的な提案や、活動が出来ていないのも現状ですが、時にふれ多くの場所に出向き、生徒と共に活動出来るよう心掛けたいと思っています。地元の卒業生の皆様は時には母校を訪れ、現状を見て頑張っている生徒を励まして下さい。また、遠方で活躍されている皆様はＩターン、Ｕターン、孫ターンなど実現いただき、ご支援下さることを強く望んでいます。それでは今年一年が皆様にとって、更なる飛躍の年になりますようお祈り致します。

「現況報告」

校長　田村　実
（電気科　昭和五十五年卒業）

江工会員の皆様には、新春をお元気でお迎えのことお慶び申し上げます。また、平素より、母校の教育活動に格別のご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、平成三十年に「第三期教育振興基本計画」が閣議決定され、令和四年度までに推進される教育施策が示されています。

同時進行で、新学習指導要領が告示され、令和四年度から学年進行されます。その中では、「社会に開かれた教育課程」の重要性が示されています。「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」となるために、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置し、学校のグランドデザインの共有、アクション（協働）の共有、成功体験の共有、情報の共有を図るとされています。

これらのことから、本校は、令和二年度に全県に先駆けて、グランドデザインの策定や、江津市内三校によるコンソーシアムを設立し、活動を実施しています。

グランドデザインは、教育理念や育成しようとする資質・能力を明示し、それらを地域社会と共有し、具体的な連携や協働による教育活動を行うことで意味を持ちます。その実現のために本校は、次年度から学校運営協議会を設置する予定です。

現在、本校の地域との協働

活動は、魅力化推進部や各科の課題研究の活動を中心に実施し、本年度も、報道メディア等で多くの活動が取り上げられました。詳しくは、本校のホームページをご覧ください。また、他校にない取り組みとして、写真は、本校管理棟一階廊下に設けた、地元企業を紹介する展示ブースです。地元企業三十四社を紹介する展示ができております。生徒がいつでも展示物を見学することができ、地元企業を知るきっかけになっています。

進路状況ですが、就職者八割、進学者二割の比率は、この十年以上変化はありませんが、就職者の県内就職率は大きく変わっています。

平成十八年度の本校の地元就職率は、二十五％と少ない状況でしたが、昨年度は七十六％、本年度は八十二％となりました。これは、令和六年度までに地元就職率を八十％にすることを本校の目標に掲げて、地元企業を理解する取り組みや、地域との協働活動を行った成果だと思っています。また、進学希望者も全員が、希望の進学先に決まりました。

次に、生徒募集の状況ですが、浜田・江津地域の県立高校は、定員割れをしている状況は変わらず、各校とも魅力化に取り組んでいますが、その成果を上回る少子化の波が日々大きくなっている状況です。

今後は、多彩な進路選択肢を増やし、中学生の気持ちを重視した取り組みを増やしていきたいと思っています。

次年度は、特に大学進学への取り組みに力を入れるよう体制を整えて行く予定です。

最後になりますが、本校への入学希望者を増やすことに力を入れ、今後とも魅力ある学校づくりを目指し取り組んで参りますので、江工会の皆様には、一人一人が活躍できる本校を、県内外問わずご紹介いただければ幸いです。

諸先輩方の母校へのさらなる温かいご支援をお願いするとともに、皆様方のご活躍とご健康をお祈りし、あいさつとさせていただきます。

「江津の現況」

副会長　藤田　厚
（電気科　昭和四十三年卒業）

令和四年あけましておめでとうございます。全国各地で、ご活躍の江工会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎のこととお慶び申し上げます。

一昨年よりのコロナ禍は、終息どころか変異のオミクロン株に悩まされている状況で先行きが見通せない状態ですが、コロナに感染しないよう心引き締めて、頑張っていただきたいと思います。皆様のご活躍を江津の地より念じています。

さて江津市では、本年五月連休明けより新庁舎で市の業務がスタートしています。議場を持たない庁舎で議会が開催されない時期は、市民の交流ホールとして開放し市民に喜んで頂いています。江工会員皆様、江津にお帰りの際には是非ともお立ち寄り頂きたいと思います。

さて、皆様もご存じだと思いますが、今年も江の川の氾濫により浸水被害がありました。これで、四年に三回の災害を受けたことになります。人口減少・過疎化に拍車がかかっています。国においては国土強靭化対策加速化計画を推進するため、江の川流域の安全確保の加速化及び持続可能な地域形成のため、全国でも初めてとなる国・県・市町などでプロジェクトチームが作られ、この四月から江津市にも江の川流域治水推進室が作られて活動がスタートしています。一日でも早い対策が望まれます。

本当に、いまの異常気象を考えると毎年災害が起こる気がしています。卒業生の皆様も気に留めていただき、応援していただきたいと考えています。昨年の挨拶にも言いましたが江津工業団地が誘致企業で満杯となり拡張工事が終わり、工場の拡張などで雇用も生まれています、まだ何社か相談があるみたいです。うれしい限りです。

また、卒業生の県内就職率・昨年は、七十二％で今年度は八十二％だそうで非常に喜んでいます。生徒一人当たり三〇社の求人だそうで産業人材を輩出する江津工業をますます盛り立てて、石見地域の核として活性化していきたいと思います。卒業生の皆様のご支援をよろしくお願い申

し上げます。それでは本年が皆様にとって素晴らしき良い年ありますように祈念します。

「コロナ過の二〇二一年はこんな年でした」

副会長・浜田支部
岡本正友
（建築科　昭和四十六年卒業）

地元をはじめ全国各地の江津工業高校同窓生の皆様には、新春を健やかに迎えられ、心よりお慶びを申し上げます。

二年続きの新型コロナは、今なお日本に限らず全世界においても大きな禍をもたらしています。

昨年の夏には、無観客試合の実施や、感染予防対策など厳重な管理の下、1年おくれの東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。テレビでみる日の丸を背負い躍動する選手の姿に感動を覚え、品位ある礼節な態度には、国民の一人として本当に頼もしく誇らしく思ったところです。さて、浜田支部では、感染症の影響から全ての会合を中止しました。本年こそは是非に開催して欲しいとの要請もあり、七月の総会に向けて、前向きに取り組んでいきたいと思っています。

一年を振り返り、地域の話題をツイートします。

昨年の暮れに、浜田の石央文化ホールで開催された未成線サミットの会場では、建築・電気科の生徒が、製作展示をしています。出来栄えに、多くの方からの称賛の声をそばで聞き、我が事のように喜んでいます。また新年早々には、建築・電気科の三年生の沖田さんが、難関の設計技能最上位資格の建築ＣＡＤ准１級検定に合格をした朗報を新聞で知り、在校生の頑張る姿に、大いなる希望を持ったところです。それから、昨年の春には、孫も江津工高に入学をし、我が家は親子孫三代にわたって母校の建築科に学ぶ事となりました。孫には、質実剛健を胸に、ものづくり戦士として、大きく邁進してほしいと願っています。

「新年のごあいさつ」

副会長　福田稔
（工業化学科　昭和五十三年卒業）

新しい年を迎えられた皆様方には、ご清祥のこととお喜び申し上げます。

「長い針何時まで？」

「長い針〇〇まで」

夕食後の孫と娘との会話です。すると、孫はリモコン片手に、YouTubeを見始めます。その間、一度も時計を見ません。まさに全集中。

娘は、YouTubeは十分から十五分と決めているようです。

孫には、まだ時間の観念はないようですが、長い針が数字の間を移動することは解っています。だから、「長い針、見て」と、約束の時間がきたことを告げられると、長い針が示す数字をチラッと見てからリモコンを離します。

それにしても、孫の集中力には驚かされます。ひたすら、目の前の画面に見入っています。一緒に見ていて、

「おもしろい？」

と聞くと、

「おもしろい！」

と答えます。おもしろいと思わない私は、「あと何分」と、ついつい時計を見てしまいます。

孫は、好きなチャンネルに合わせてリモコンを操作します。区切られた時間を有効に使って、存分に楽しんでいます。

皆様は時間を区切られた時、

「まだ何分ある」

と思われますか。それとも、

「もう、何分しかない」

と思われますか。もちろん、状況によって違うかもしれません。私は「まだ何分ある」、だから、今できること、これからすることを考えます。目の前のことに集中し、それを積み重ねていくことが、見通しにつながっていくと思っているからです。

孫を見ていて、自分の好きなことだけできたら、そりゃ「おもしろい」だろうと思います。大人になると、嫌なことでも集中しないと、片付かないことがでてきますし、時間の観念もでてきます。そんな中で、自分のワクワクを感知するアンテナはいつも立てていたいと思っています。

令和四年が、皆様方にとりまして、素晴らしい、そして、楽しい年になりますことをご祈念申し上げます。

江工会支部だより

江津市役所支部

「昨年の出来事」

支部長　石原公司
（建築科　昭和五十八年卒業）

会員の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、かねてから建設していました、江津市役所新庁舎が昨年四月に完成し、五月六日からは新庁舎での業務が始まりました。新しい庁舎は、一階に市民窓口をワンフロアにまとめ、市民サービスの向上が図られているほか、二階の多目的ホールは、議会中は議場として使用しますが、会議室等として一般の方にも貸し出しが出来るようになっています。また、四階には展望広場・展望デッキがあり、市民の方々が寛げるスペースが設けられています。展望デッキからは、母校の江津工業高等学校も少しではありますが見る事ができます。その他にも、地中熱を利用した空調設備、災害時の非常電源設備等々、市民・環境・災害に配慮された庁舎となっています。会員の皆様におかれましては、近くにお越しの際は一度見学していただければと思います。

一方、新庁舎で業務が始まったことにより、江津市のシンボルの一つであると共に、建造物としての価値もある旧本庁舎の今後のあり方について、現在、活用方法、或いは解体するのか、色々な視点から検討が行われています。

そして、昨年四月にはコロナ禍により開催を中止していました総会を二年ぶりに開催し、併せて三名の方の送別会を行いました。江津市役所支部の会員は減るばかりで、現在は十三名の会員がいますが、私が市役所に入った頃と比べ四十名余り少なくなっており、いつまで江津市役所支部が存続できるか危惧しております。母校の生徒数自体が減少している中、在校生や卒業された方々が地元である江津市職員採用試験を受けて頂き、一人でも会員が増えることを願っております。

最後となりましたが、江工会会員の皆様のさらなるご活躍とご健勝を祈念いたしますとともに江津市役所支部へのご指導、ご協力をよろしくお願いします。

総会にて

関東支部

「江津工業高等学校の今後と江工会について」

副支部長　勝田友治
（電気科　昭和三十八年卒業）

新年おめでとうございます。江工会会員の皆様におかれましてはお元気で新年をお迎えされたこととお喜び申し上げます。新型コロナウイルスの影響で二年間、大変な思いをしてきました。今年は新型コロナウイルスの影響が収束し、通常の年になる事を祈念致します。

「江津工業高等学校と江工会」

令和六年（二〇二四年）、二年後に母校は創立九十周年を迎えます。母校で記念行事を計画・立案・準備される為に今年が重要な年になると思います。盛大な記念式典・行事等が行われますように江工会本部を中心にして是非協力しましょう。創立七十周年記念式典では建築科昭和二十九年卒の藤井浩史様が講演されました。又、創立八十周年記念式典では建築科昭和四十七年卒の西村和也様が講演され、更に建築科昭和三十三年卒の大木一司様が、高額の寄付をされ、マイクロバスの購入資金になりました。

母校の前身校は明治三十五年（一九〇二年）四月、島根県那賀郡立蚕業講習所として開校し、昭和九年三月に廃校

になりました。その直後四月より島根県立江津工芸学校として創立され、多くの卒業生が現在も石見地区の工業発展に多大な寄与をしています。

「島根県立高等学校の再編成計画等について」

島根県教育委員会指導のもと、平成二十八年四月に「今後の県立高校の在り方検討委員会」が発足し、令和三十年三月迄、合計十七回実施されました。

平和二十八年九月（第五回）には浜田市及び江津市で再編成計画についての公聴会が開催され、江工会からも多数の出席者がありました。又、最終回（第十七回）では「パブリックコメントの実施結果について資料―1（意見及び回答）」の報告があり、江津工高に関連した意見が六十二件中十二件ありました。詳細は島根県教育庁学校企画課のＨＰ「県立高校の在り方検討委員会」を開いて下さい。

「県立高校魅力化ビジョン（案）」

その後、平成三十一年二月に島根県教育委員会から二〇二〇年代の県立高校における教育の基本的な方向性と具体的な取組を「高校魅力化ビジョン」を策定され、向う十年間の「方向性」を示すとともに、前半五年間については「具体的な取組」を示し、後半五年間については改めて県教育委員会で検討していくことと発表されています。

全高校で令和四年度中（二〇二二年度中）に「高校魅力化コンソーシアム（教育魅力化推進協議会等）」を構築し、翌年から推進する計画になっています。詳しくは島根県教育庁教育指導課のＨＰに記載されています。各高校・地域の「高校魅力化コンソーシアム」で江津市は「県立高校ＧＯ▶ＧＯＴＳＵコンソーシアム」（三校対象）、浜田市は「ＨＡＭＡＤＡ教育魅力化コンソーシアム」（六校対象）、益田市は「益田市未来の担い手育成コンソーシアム」（五校対象）、その他石見地区の各高校には「教育魅力化コンソーシアム」が開設されました。会員は各高校・県及び市等の行政機関・教育関係者・ＰＴＡ連合会・卒業生会等です。

①「高校魅力化コンソーシアム（県教育委員会の教育魅力化推進チーム）：Ｐ―６参照」

②「工業に関する学科（石見地区で三校）：Ｐ―17、18参照」

③「浜田市・江津市の県立高校の方向性：Ｐ―31、32参照」

江津工業高等学校にはその他「後援会」があり、その会員は石見地区の大田市から益田市までの行政機関・商工会議所・民間企業・母校等です。後援会の副会長には江工会会長が赴任していますので、母校への強力な支援活動を推進して頂きたいと思います。

又、母校から「ごうこうＮＥＷＳ」が定期的に発行されていますので参照して下さい。

「江工会の活性化について」

江工会の活性化の為に、諸活動の推進を図る事が必要と思います。今までは事務局（学校職員）が纏めて事務局活動していましたが、学校業務多忙になり、手が回りにくいようです。本部と事務局で協議の上、業務分担整理をされ活性化に努めて下さい。

関西支部

「コロナ禍の中で」

支部長　橋本克己
（建築科　昭和四十二年卒業）

会員の皆様、明けましておめでとうございます。

コロナ禍の中での新年を、家族一同揃って迎えられない状況になっておりますが如何お過ごしでしょうか。

江工会関西支部も、コロナ禍の中、一昨年、昨年と、総会、役員会等を含め支部活動が、全然出来ていない状態が続いております。現在の世の中でも、新聞、テレビ等の報道で、暗いニュースが多い中、唯一明るいニュースは、東京オリンピック開催だったと思いますが、皆さんは、如何だったでしょうか。無観客のために、盛り上がりに少し欠けていた感はありましたが、テレビでは唯一の楽しみだった様に思います。その中で、関西

支部も会員相互のコミュニケーションの一端として役員会も兼ね、ゴルフ同好会の皆様と、年間三回程度、平日にコロナ対策をしっかりして、三～四組で開催しています。総会に出席できない方でも、ゴルフだけには参加して頂ける方もおられ、大変和やかな雰囲気で、プレーを満喫されて居られます。此からも、その他の同好会を広めていければと思っております。

まだまだ、コロナが収束に向かいつつも、また新たにオミクロン株が発生し出口が見えない状況ですが、会員の皆様方におかれましては、寒さ厳しき折、健康にご留意頂き、今年六月に記念総会を開催予定にしておりますので、お目にかかれる事を願っておりますと共に、江工会並びに各支部の益々のご発展と、会員の皆様方の、ご健勝ご多幸をお祈りし、今年一年がよい年になりますように御祈念申し上げます。

山口県支部

「江工会の発展を祈願」

支部長　大屋節雄
（工業化学科　昭和三十八年卒業）

皆様、明けましておめでとうございます。

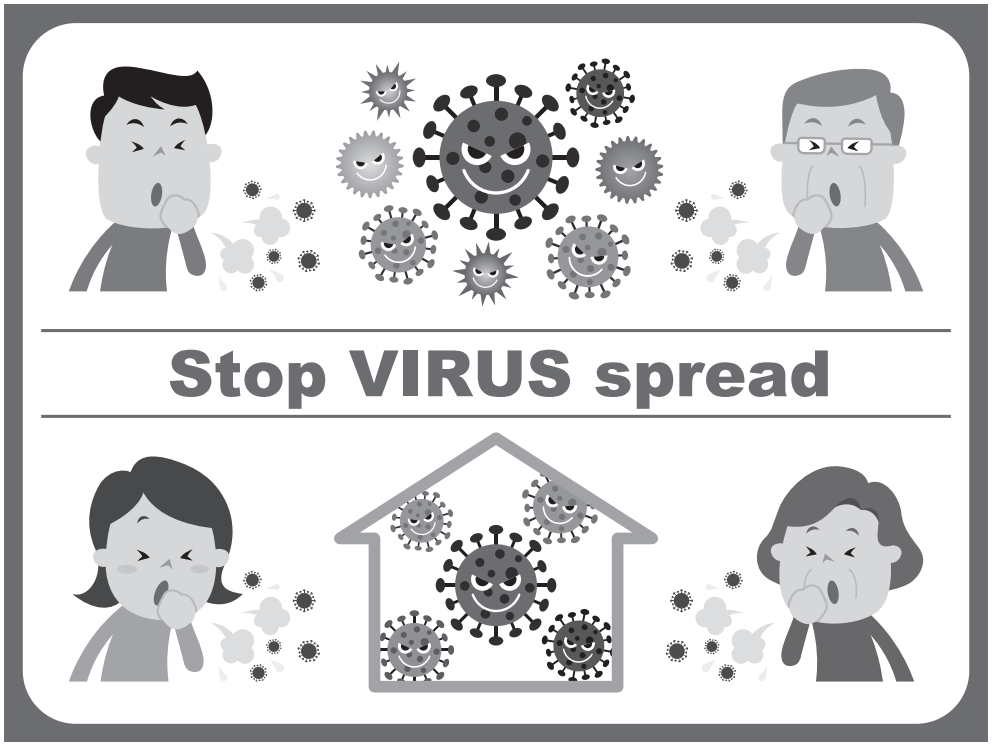
令和二年、三年と新型コロナが世界中に蔓延し、すべてのコミュニケーションを伴う行事が中止、ホテル・レストラン等の倒産、失職する人が出て、大変な年が二年間続きました。

当岩国地区でも、飲み屋街は閑散としており、倒産したレストランも発生しております。昨年十月から落ち着きを取り戻しつつありますが、いつクラスターが出るか、またオミクロン株がやってこないか、気がかりしながらの毎日です。

以上の理由で、江工会山口県支部総会を開催するめども立っておらず、関係者を集めての事前の相談等もできない状態です。

支部の活動が出来ない中、明るいニュースはありませんが、何よりも皆さん、健康で気持ちに滅入る事なく頑張りましょう。

最後に江工会本部の益々のご発展、並びに江工会関係者のご健康とご多幸を祈願して筆をおきます。



◆事務局だより◆

令和三年一月～十二月

◇会報五十五号発行
二月二十五日㈭
県内外各支部、卒業生在籍地元企業、現教職員、在校生、同窓会等に配布。

◇新卒者入会式
二月二十六日㈮
江工会入会式（令和二年度卒業生六十四名）
江工会会長　土井正人氏（工業化学科S三十九年卒）より式辞をいただく。

◇江工会理事会・総会　中止
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とし、書面決議を行いました。
送付数百二名（理事五十八・評議員四十三）、回答数五十八名（理事四十一・評議員十七）

◇関東支部総会　中止
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とし、書面決裁を行いました。
送付数二百十四名、回答数六十八名

◇山口県支部総会　中止

◇関西支部総会　中止

◇浜田支部総会　中止

訃報

謹んでお悔やみ申し上げます。

旧職員
天津邦之（浜田市）
第十八代校長
平成五～六年度

横田利彦（江津市）
保体
昭和二十九～三十年度
昭和五十八～平成二年度

若槻智宏
機械
平成十四～十八年度

佐々木　馨（江津市）
機械
昭和四十四～六十一年度

会員
藤井清栄（関西支部）
（昭和三十五年　建築）
元関東理事

竹内歳博（関東支部）
（昭和三十六年　電気）

山田律男（岡山市）
（旧姓　高野）
（昭和三十八年　電気）

椿　博（江津市）
（旧姓　川村）
（昭和十七年　木業）

山本和克（江津市）
（昭和二十六年　木芸）

小谷富雄（江津市）
（昭和二十七年　機械）

村田春樹（江津市）
（昭和二十九年　機械）

西谷　佑（江津市）
（昭和三十年　木業）

水口　享（江津市）
（昭和三十年　機械）

山田康典（江津市）
（昭和三十五年　建築）

小川健一（江津市）
（昭和三十九年　工化）

松本晴夫（浜田市）
（昭和四十六年　工化）

安野幹治（大田市）
（昭和四十八年　工化）

中川哲朗（浜田市）
（昭和四十九年　機械）

中野　勉（江津市）
（昭和五十五年　工化）

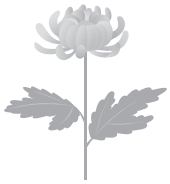
岩谷秀美（大田市）
（昭和五十五年　電気）

山口英之（浜田市）
（昭和五十九年　電気）

小川雅士（浜田市）
（昭和六十三年　工化）

佐々木龍一（江津市）
（平成六年　機械）

※事務局で把握できた方のみ掲載しております。



編集後記

多忙な折り、快くご寄稿いただきましたこと、厚くお礼申し上げます。お蔭さまで第五十六号を発行することができました。
なお、今後とも会報に対しましてご意見、情報等（同窓会報告、会員消息等）がございましたら事務局へご連絡をお願い致します。
（事務局　三浦）

令和２年度 江工会一般会計 決算書

１．収入の部

（単位　円）

項　　目	予算額	補正額	補正後予算額	決算額	差　引	備　　考
1 繰越金	1,200,558	0	1,200,558	1,200,558	0	令和元年度繰越金
2 会費・入会金	691,200	0	691,200	680,401	10,799	Ｒ２年度卒業生63名分利息含む
3 寄付金	10,000	0	10,000	0	10,000	
4 繰入金	0	0	0	0	0	
5 雑収入	42	0	42	10	32	預金利息
収入合計	1,901,800	0	1,901,800	1,880,969	20,831	

２．支出の部

（単位　円）

項　　目	予算額	補正額	補正後予算額	決算額	差　引	備　　考
1 工業教育振興会費	10,000	0	10,000	10,000	0	県工業教育振興会への助成
2 会報発行費	150,000	0	150,000	132,000	18,000	会報55号　2,000部発行
3 記念品費	40,000	0	40,000	32,000	8,000	卒業生への角筒64名分
4 会館運営費助成	150,000	0	150,000	150,000	0	江工会館運営費への助成
5 通信費	50,000	0	50,000	22,269	27,731	総会案内、会報発送料
6 旅費	300,000	0	300,000	660	299,340	浜田支部総会出席旅費
7 会議費	200,000	0	200,000	10,000	190,000	浜田支部への支援金
8 慶弔費	30,000	0	30,000	0	30,000	
9 雑費	30,000	0	30,000	6,600	23,400	広告料
10 積立金	200,000	0	200,000	200,000	0	定額貯金
11 予備費	741,800	0	741,800	0	741,800	
支出合計	1,901,800	0	1,901,800	563,529	1,338,271	

令和３年度 江工会一般会計 予算書

１．収入の部

（単位　円）

項　　目	予算額	補正額	補正後予算額	前年度当初予算額	増　減	備　　考
1 繰越金	1,317,440		1,317,440	1,200,558	116,882	Ｒ２年度からの繰越金
2 会費・入会金	518,400		518,400	691,200	△ 172,800	R３年度卒業予定者48名分 10,800円×48名
3 寄付金	10,000		10,000	10,000	0	支部からの支援金等
4 繰入金	0		0	0	0	
5 雑収入	60		60	42	18	預金利息
収入合計	1,845,900		1,845,900	1,901,800	△ 55,900	

２．支出の部

（単位　円）

項　　目	予算額	補正額	補正後予算額	前年度当初予算額	増　減	備　　考
1 工業教育振興会費	10,000		10,000	10,000	0	県工業教育振興会への助成
2 会報発行費	150,000		150,000	150,000	0	会報56号2,000部発行
3 記念品費	40,000		40,000	40,000	0	卒業予定者への記念品
4 会館運営費助成	150,000		150,000	150,000	0	江工会館運営費への記念品
5 通信費	50,000		50,000	50,000	0	総会案内、会報発送料
6 旅費	300,000		300,000	300,000	0	各支部総会出席旅費
7 会議費	200,000		200,000	200,000	0	各支部費の支援費
8 慶弔費	30,000		30,000	30,000	0	
9 雑費	30,000		30,000	30,000	0	広告料
10 積立金	300,000		300,000	200,000	100,000	定額貯金
11 予備費	585,900		585,900	741,800	△ 155,900	
支出合計	1,845,900		1,845,900	1,901,800	△ 55,900	